

《こどもの新型コロナウイルス感染症で大事な7つのポイント》

株式会社ジャクパ

この度、第17回日本幼児体育学会大会にて、小児科の医師より“こどもの新型コロナウイルス感染症”に関わる講演を聞きましたので、報告させていただきます。

①こどもの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、重症化することは稀である

現在までの報告で、コロナ感染者数は150万人、こどもの陽性者数は約57,000人となり10歳未満の感染者数は全体の3.9%(去年は2.4%)で昨年より感染者も割合も増加している。ただし、こどものほとんどは軽症で重症化は極めて少ないので、過剰に心配する必要はない



②症状から通常の風邪と COVID-19 を区別することは難しい

成人も同じであるが、こどもの症状からコロナか他の感染症かを区別することは難しい。軽症が多いこどものコロナは水分補給や解熱剤などの対症療法が基本になる。コロナであってもコロナでなくても、**感染症に罹っている間は「食べる」「寝る」「遊ぶ」**ができていようかどうか、病院受診のひとつの目安になる。

③こどもの感染経路は主に家庭内

こどもが感染する経路の多くは家庭内。学校等が始まり、こどもからこどもへの感染も増えてきてはいるが、基本は大人が感染してこどもにうつしている。



④家庭内に持ち込むのは会食の場や職場などで陽性者と接した大人

小さな子がいる家庭で、おとなからこども、こどもからこどもへの感染を防ぐことは不可能。周りの大人が感染しない、ウイルスを持ち込まないことが大切。大人が家庭の外で、マスクを外して会話すること等は止めましょう。

⑤主な感染様式は飛沫感染。過度な環境清掃は不要

主な感染経路は飛沫感染。そのためにマスクをする。コロナウイルスを触ったとしても手から感染するわけではないので、手を洗えば大丈夫。家庭や保育所でも、部屋中のあらゆる箇所を消毒する必要は無い。清掃は通常のやり方でOK、病院と同じことをする必要はありません。

飛沫感染→8割、接触感染→1割、環境による感染→1割



⑥大人はワクチンで身を守る。

ワクチン2回接種で3つの効果が期待できる。

(1) うつりにくい (2) うつしにくい (3) 重症化しにくい(ワクチン接種で低下している実証有り)

⑦地域の流行状況にあわせたガードの上げ下げをする

コロナ感染対策に特別なことは無い→当たり前のことを当たり前に行うこと。

こどもたちはマスク着用、手洗い消毒、給食の黙食等、様々な制限がある中で本当に良く頑張っています。大人も少なくとも感染が流行している間は、会食などを我慢しましょう。



以上、第17回日本幼児体育学会大会にて

尼崎総合医療センター 小児感染症内科 伊藤医師の講演より

コロナ禍で様々な制限があり、こどもたちの健康面や将来を心配いたしますが、こどもたちは大人を守ろうとして頑張っています。大人が生活面を改善していかなければいけません。飲み会等の外食や集団活動が未だある現状で、本来は大人がこどもを守るべきです。

ジャクバでは、現在約 33,000 人の子どもたちが課外スポーツクラブ及び英会話教室で、明るい未来を夢見て毎日取り組んでおります。また、年間を通して実施している野外・特別教室では約 10,000 人の子どもたちが体験・日帰り教室に参加されており、正課指導においては、全国で約 12 万人の子どもたちに専門の講師が指導を行っております。日頃から園の先生方、保護者の皆様のご協力のもと感染防止対策を徹底しており、おかげさまで教室内では感染者を出すことなく指導にあたる事が出来ております。

幼児期・児童期においても免疫力が低下すると様々なウィルスに感染しやすく「栄養・睡眠・運動」をバランス良く摂ることが特に大切です。

日常生活においても、健康面を維持することは必要不可欠な要素となり、スポーツクラブ・英会話教室の指導を通して、将来を担うこどもたちの健康面をサポートしてまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

